



あけましておめでとうございます。アメニティ2000協会は認定特定非営利活動法人となりました。

昨年12月19日、理事長清水彬久と準備委員会の志水英生さん、谷本雅憲さん、中村忠夫さんが兵庫県庁県民生活局長室をおとずれ、認証書を授与されました。私たちの組織が公益活動をおこなっており、その運営も健全であると公式に認められたということで、大変誇らしいことです。NPOとしてのステップアップをはかり、約3年にわたって担当スタッフの方々が地道な作業を積み重ねてこられた成果です。委員会の皆さん、お疲れさまでした。



認定を受けると協会への寄付について税制上の恩典があります。詳しくは同封の説明書でご説明いたしますが、これにより協会への寄付がしやすくなり、今後の活動にはずみがつくと期待されます。

認証のご報告のメールを送りましたところ、多くの方々から祝意をいただきました。ありがとうございました。

【コラム】

更なる役割を

清水 彬久

よく似ていると言われる105歳の母から、ある日突然私に向かって「代り映えない顔やね」というお言葉があったのです。不意であったので「そらお互いさまじゃないの」と言い返すと、「そらそうやね」という返事が返ってきました。この会話は、これで終わったのですが、時々妙なことを言うものの、その意味するところが気がかりであります。こんなこともありました。母が手もとのネックレスを着けてくれというので、そのようにすると、気に入らないのです。内心年甲斐もなくなっていくながら、「それよく似合うよ」と言うと、「だから男性は相談しがいがないのよ」と女心を傷つけてしまいました。これらの意味深な迷語録を読み解けば、「居てもらいたいような存在感のある顔をしなさい」そして、「もっと相手の気持ちになって、できることをしなさい」と暗喩の親心で諭しているとすればありがたいことです。

さて、昨年の活動成果についてご報告しておきたいと思います。まずヴォーリズ六甲山荘ですが、山荘は1934年(昭和9年)建築ですから、丁度80歳を迎えるために記念行事として春と秋に特別公開を19日間行いました。その間マスコミに取り上げられ、秋の台風被害による表六甲が不通になるという不便さも乗り越え、お陰様で通算82日で前年比2.2倍にあたる1,570名の来場者と予想を上回る好結果となりました。このような積み重ねが、山荘を知名度の高い文化財にしてくれるでしょう。

それから、この数年最大の課題として取り組んできました認定NPOの認証を昨年の12月に兵庫県から受けることができました。公益性の高い法人になるために認定NPO法人になることを選択し、準備委員会が事務局となり要件整備のための問題点を洗い出し、ひとつずつ解決していき、長年の念願がようやく実現できたものです。このことは、ヴォーリズ六甲山荘を購入した時以来の価値ある成果と言えます。

当協会のようなナショナル・トラスト運動による活動にとっては、文化財等の貴重な資産を保全していくための基金が必要です。しかし、日本では英国のようなトラスト法という環境保護法がありません。そのために、現行制度で類いの効果があります認定NPO法人の取得によって、寄付行為等に対して税制上の恩典を得ることにしたのです。兵庫県では、2,000以上のNPO法人がありますが、資産管理型の法人としては、初めての認証となります。これを機にしまして、当協会が更なる役割を果たしていきたいと願うものであります。

今年は、当協会の創立15周年にあたります。皆さんの力でアメニティ2000協会の存在を世に知らしめていきましょう。

お知らせ

- ・新年会・関西地区 1月10日(土) 草志舎
- ・タイ交流旅行 2月9日(月)～15日(日)
- ・六甲山荘作業 1月16日(金)
- ・六甲山荘作業 2月21日(土)
- ・新年会・関東地区 1月25日(日) 涵徳亭
- ・セミナー下期 2月26日(木) ジェームス邸

予告

新年会

今年は新年会を関西と関東の2か所でひらきます。日頃ゆっくり話ができない会員どうし、楽しいおしゃべりをしてすごしましょう。とくに今年は認定をうけたお祝いの会でもあります。みんなでお祝いの乾杯をしましょう！

- ・関西 1月10日(土) 草志舎にて
- ・関東 1月25日(日) 涵徳亭(小石川後樂園前)

詳しくは同封の案内チラシをごらんください。

予告

下期セミナー見学会〜〜ジェームス邸訪問

下期のセミナー、2月には六甲山荘と同期の名建築として、神戸市垂水区塩屋にあるジェームス邸を訪ねます。三洋電機の創業者井植歳男によって「望淡閣」と名付けられたこの建物は、建物、内装、立地、すべてにおいて阪神間有数の近代住宅建築とよべるものです。現在は結婚式場・レストランとして活用されています。

月日 2015年2月26日(木)

集合 午後1時40分 JR塩屋駅改札口
内容 竹中工務店の方の案内で見学。そのあとティータイム。
参加費 会員2000円 一般2500円 (お茶代込み)
定員 30名
オプション ジェームス邸のレストランでランチ(2000円)
12時10分 塩屋駅改札集合
詳しくは同封の案内チラシをごらんください。



ご報告 下期セミナー・建物の保存を考える in Tokyo 11月8日(土) 栃木県益子

益子は陶芸家濱田庄司(人間国宝)が長年活動拠点とした町です。その濱田庄司の住いや工房、作品などを見てまわり、天然藍の藍染工房を訪問するなど、生活に根ざした工芸の町を楽しみました。昼食は会員の日下田宗弥さんのご実家でいただき、北関東の豪農の屋敷も拝見しました。



ご報告 ヴォーリス六甲山荘 大掃除&暖炉とワインを楽しむ会 11月23日(日)

7か月半にわたって公開活動を行った六甲山荘も冬ごもりにはいります。そのため片づけや庭の手入れなどを行い、そのあと暖炉に火をいれて持ち寄りのワインと料理で食事を楽しみました。建物もスタッフもご苦労さまでした。春が来るまでゆっくりお休みください。



ご報告 名建築と音楽シリーズ 11月30日(日) 関西学院聖和キャンパス4号館(ダッドレーメモリアルチャペル)

会場となった関西学院聖和キャンパス4号館はもと神戸女子神学校のチャペルで、ヴォーリス設計です。簡素ながら毅然とした建物で音の響きもよく、出演の畑儀文さんと春木浩子さんも喜んでおられました。テナーの歌声とハープの演奏はもちろんすばらしく、参加者の皆さん晩秋のひとときを満喫しておられました。



ご報告 下期セミナー見学会 12月13日(土) 宝塚市雲雀丘花屋敷

大正期に開発された住宅地である雲雀丘花屋敷には個性的な建物が多く残っています。傾斜地を上手に利用した町並みの姿を楽しみ、この姿と緑を守ろうと努力しておられる住民のお話をうかがう有意義な半日でした。

正司邸で住民の話を伺う→



トラストユース・センター第Ⅲ期生募集

次の世代をになう若い人材を育てようというトラストユース・センターの第Ⅲ期生を募集します。2014年度は田中里奈さん、田中翔さん、上川真奈美さん、ハナ・イスタムさんと4名が参加してくれました。彼らに続く学生を求めています。このアメニティ便りに募集要項を同封しておりますので、お知り合いの若人に声をかけていただけませんか。もっと枚数が必要でしたらお送りいたします。

若い人たちのエネルギーをぜひ当協会に！！

◇◆◇おしゃべリアラカルト◇◆◇

Wホリデー感想文

田中 翔

私はワーキングホリデーに参加し、参加者はじめスタッフの方々、六甲山荘を本当に大事にしているのだと思いました。六甲山荘はいつ来てもきれいで、普通の家屋とは一線を隠したどこか懐かしいような気持ちにさせてくれます。今回のワーキングホリデーではそんな六甲山荘に滞在することができ、また六甲山荘の保存活動に携われたことをとても光栄に思っています。建築物の補修に関する知識を全く持ち合わせていない私ですが、ワーキングホリデーでは建築専門の方に指導していただき、私も力になることができました。補修工事に使う道具や材料など今まで見たこともないものばかりで、とても勉強になりました。最も思い出に残っているのは石釜の装飾です。六甲山荘の夏の特別公開の期間などでは特別に手作りのピザを来ていただいた方に振舞っています。そこで登場するのが石釜です。私たちはこの石釜の後ろ部分の装飾を自分たちでデザインを決めて行きました。出来上がりには自信があるので六甲山荘に来ていただいたら一度見ていただきたいと思います。そして六甲山荘のひとつの見所になればうれしいです。

六甲山荘で過ごした数日間は本当に素敵な時間でした。ワーキングホリデーの開催期間中の神戸の町は夏の盛りを迎えていたそうです。そんな気配を一切感じさせない六甲山荘はまさに都会の喧騒を忘れさせてくれる場所であり、ここにしかないゆっくりとした時間が流れていました。私たちはそんな中で無理なくみんなで協力し合いながら作業を続けていき、まさにこれがワーキングホリデーの醍醐味だと思いました。作業の後にスタッフの方が用意くださった料理は仕事を終えた清しい気持ちとそれを喜んでくれているかのような六甲山荘のぬくもりの中でよりいっそうおいしく感じました。今回のワーキングホリデーでは食事をはじめ私たちが六甲山荘で生活しやすいようにサポートくださったスタッフの方々や補修作業についてわ

かりやすく教えていただいた専門家の方々に心から感謝したいと思います。皆さんのおかげで充実した山荘ライフをおくることができました。ワーキングホリデーが今後も第5回、第6回と続き、それを通じて六甲山荘がさまざまな人の手によって、その思いを受け継ぎ後世に残っていく存在になることを願います。

<ワーキングホリデー(8月5日～8日)>



石釜のタイル装飾完成!

草木染め～ハンカチを染めよう!

川上 篤子

トラストユースの子ども向けのイベントとして、10月18日(土)六甲山荘において実施いたしました。企画をするにあたり、どんな材料を使い、何を染めるか。また作業の進め方をどのようにもっていくか? 試行錯誤した結果、染色に使う植物は、山荘の庭にある栗のイガ。染めるものは木綿のハンカチ、ガーゼのハンカチの2種類。媒染にはミョウバンに決定。事前にスタッフと予行演習も済ませ準備万端。

当日は、晴天。二組の参加です。小学4年生と中学1年生のお嬢さんたち、お母様がたと一緒に来てくださいました。みなさん草木染めは初めてで、興味津々。お庭でカセットコンロを使い、お鍋で栗のイガをぐつぐつ煮ました。「茶色い～! 栗の匂いするかな?」と言いながら染色液を

抽出。

次に、ハンカチに模様をつける作業です。おはじきやビー玉、割りばしを輪ゴムできつく縛っていきます。どんな模様になるか？考えながらの作業は、難しいけれど楽しみでもあります。お母様がたも真剣です。根気も見せどころ。

さあ、染色液に漬けてみましょう。みるみる染まっていきます。15分もするとしっかり染まります。それから色を定着させるために媒染液に漬けてもみもみします。あと少しね、頑張ってね！と言いながら口も手も動かしながらの楽しい時間です。今度は水洗い。山荘のお水は、冷たいよ！と子どもたちの声。ハンカチの模様は、どんなふうになってるでしょう？！ドキドキです。「わ～、こんなの！みてみて！」「かわいいね」「思ったのと違ったけど、いいな」など笑顔がいっぱい。ロープに干して乾かします。

昼食のピザのトッピングもしたい！したい！とやる気満々の子どもたち。先ほど干したハンカチがはためくのを見ながらの食欲もりもり。

そのあと山荘にいらした見学者の方々も交え、作品の発表会をしました。たくさんの方々には自分の作品を見てもらったり、質問を受けたりと有意義な時間を過ごせたと思います。参加したみなさんの笑顔の中、イベントを終了することができました。 <草木染教室（10月18日）>



作品の発表

益子訪問

元木 悦子

いつもひと味違うアメニティの街歩き@益子、土ものファンとしてはワクワクと、湘南新宿ライン2時間も何のそ

の。YouTubeにある新進気鋭のドゥダメル指揮・幻想交響曲などゆっくり鑑賞する間に宇都宮着。小型バスに乗り小一時間で益子へ。怪しい空模様も、会員日下田さんのテンポ良いご説明に一同一気に和やかになりご実家へと案内される。敷地へおじゃまするとそこには思わず嘆声ももれる日本建築がたずずんでいた。大きなお座敷なのに威圧感がないのは、木造の良さと、きちんと普通の暮らしを営まれている方々の存在を感じるからだろう。お玄関の生花はおおらかに枝を使い、広々した空間に溶け込んでいる。かなり高さのあるお座敷に上がらせて頂くと、間仕切りの板戸に直接描かれた棟方志功の迫力にまた嘆息。黒光りした天井や凝った欄間に見惚れつつ、美味しい釜飯と汁物を頂戴した。数々の陶器、掛け軸、ついたてなど拝見するうち先月見た「国宝展」を思い出す。世界に誇れる日本文化が個人のお宅に息づいている。お庭は見上げるような高木を借景に、自然と溶け込む造作がさりげなく、ご当主の息子さんが「剪定したてですから」とおっしゃっていたがいつまでも見ていたくなる魅力があった。可愛らしいお嬢ちゃま方も「給食の益子焼きが割れちゃったことある」と説明して下さいました。

美術館での濱田庄司のお孫さんや館長さんのご説明も一般には知られざる内容、特権で嬉しい限り。唯一お店をあまり回れなかったのは残念だった。帰りの電車は一本逃すと1時間半後。出発を早めて頂き何とかセーフ、ありがとうございました。お陰様で翌日のサークルで合奏したロマンチックなルイズ・ファランの曲とともに一生思い出に残るだろう旅となった。

<下期セミナー益子訪問（11月8日）>



濱田庄司参考館

六甲山荘の作業

大掃除を終え、12月5日には水抜きをして、いよいよ山荘は冬ごもりです。電気温水器が冬を越すのは業者に頼んでも毎年トラブルがおこっていますが、今年はわたしたちで工夫してみることになりました。さてうまくいくでしょうか。



温水器をカバーする→

六甲山荘の作業を一緒に

冬のあいだも風通しや整備のために作業を行います。寒いですが、動いていると温まってきます。雪景色や樹氷を楽しめるかもしれません。真冬の六甲山を経験してみませんか。

日時 1月16日（金）

2月21日（土）

いずれも午前10時ごろから

おいでになれる方は事前にご連絡ください。

ヴォーリス六甲山荘の一年のメンテナンスを振り返って

米津 寛司

私は古都京都で生まれ、その後憧れの神戸に住み始めて約30年。その間六甲山南斜面に1970年築の閉鎖された企業保養所を個人の別荘として購入し自力で修理再生、長年の夢だったオーディールームを完成させて山荘修復の合間にレコードと映画三昧に日々すごしております。

ヴォーリス山荘は愛犬の散歩コースの途中で時々拝見させていただいておりましたが、昨年からは住处と活動の拠点を六甲アイランドから六甲山の別荘に移したことを機会に入会させていただくこととなりました。

週末のご案内は素敵なお女性陣にお任せして、私は先輩の修理の達人増田さんに弟子入りし、主に月一回の山荘のメンテナンス作業をお手伝いさせていただきました。一級建築士として新築住宅には170軒近く携わってきましたが古い住宅の改修維持管理はまだ勉強中ですのでこの一年はスリルの連続でした。軒先を腐らせていた古いトユの撤去では頭から溜まっていた泥水を被って脚立から転落しそうになり、長年の風雪に苔むした屋根のジェット洗浄では危うく滑り落ちそうになったり・・・湿気対策の山荘周りの砂利敷作業では毎回200kg近くの砂利袋を買出しに麓まで10数往復！筋肉痛と腰痛に悩まされましたが何とか怪我もなく楽しく皆さんと汗をかかせて戴きました。

メンテにはまだ参加されたことのない方も経験は問いませんので是非一度一緒に日曜大工にトライされては如何でしょうか？運動不足解消と健康維持に空気の良い六甲山での軽作業は最適ですし何より作業の後の美味しいコーヒーは格別です！ご参加お待ちしております。



六甲山荘たより

11月の六甲山荘

11月の公開は6日間、ほかに平日の団体もふくめて来場者は129名でした。六甲山は秋がシーズン、さわやかな空気のなか建物をゆっくり味わっておられました。

7か月半の公開期間中、スタッフの皆さまよく頑張ってくださいました。ありがとうございます。建物も人もしばらくお休み。4月からまたよろしく願いいたします。

《お薦めの本》

宇沢弘文著「社会的共通資本」

木下 洋子

この本との出会いが著者の他界というニュースであったことは残念の極みです。ニュースではノーベル経済学賞に一番近いと言われた経済学者と紹介されていた。2014年9月に86歳で亡くなった著者は市場を自由に競争させることが経済を発展させるという効率主義に偏重し、競争に負けたり、参加できない人たちとの格差が急激に拡大していくことを無視しつつける新自由主義と称される経済学者と政治家たちに強い批判を表明していたそうです。「人のための経済」を取り戻し、それを確立するための諸施策を提案されてきましたが、その基幹的な考えを簡易にまとめられたのが本書です。もっと専門的に掘りさげたい人には専門書が残されています。また、著者に近い（と私木下が浅学の中で独断）考えを提示されている方の著作も合わせて後記します。私は自然科学系の基盤で生きてきた者ですが仕事として取り組んだ消費者問題から生活経済、消費経済、商品論などを通して経済に浅く関わりをもってきて50年、日本の変化が平成になったころから行先不明か行先崖っぷちかと不安になることが年々色濃くなってきていた時の著者の他界は残念でなりません。235ページの縮小された提案は氏が目指す豊かな社会を実現するために社会的共通の資本を

「地球環境を永續させる環境対応とそこに根付く農、林、漁、などの食糧産業、そしてそれを支える教育、医療」を掲げて述べています。私が今日本の中で一番緊急に対策に入らねば金の財を泥沼にさせ、日本の命を押し流してしまうのではと思っている（大げさではなく）森林について2015年1月に刊行の予定であった「社会的資本としての森」が未完のまままで終わらないことを願っています。
(岩波新書2000年初版)

参考・「経済学は人々を幸福にできるか」宇沢弘文著 東洋経済新報社

- ・「経済と人間の旅」宇沢弘文著 日経新聞出版社
- ・「共生の大地」内橋克人著 岩波新書
- ・「セーフティネットの政治経済学」金子勝著 ちくま新書
- ・「ピケティ『21世紀の資本』を読む」現代思想1月臨時増刊号 青土社

*新入会員の自己紹介

ハナ・イスタムさん ナショナル・トラスト運動の発祥の地英国から来ました。英国の北西部にあるランカシャーの出身です。美しい土地でビアトリクス・ポターの家にも近いです。アメニティ 2000 協会の会員には最近なったばかりですが、この協会とは 2000 年から 2011 年にかけてご縁がありました。当時わたしは JET プログラム (外国語青年招致事業) で愛媛県で英語教師をしていました。日本での文化遺産の保全活動に興味をもって、ヴォーリズ六甲山荘を訪問しました。その経験を記事にして INTO(国際ナショナル・トラスト機構)に送りました。その後文化遺産の修士をとってケンブリッジ大学を卒業しました。現在はケンブリッジ大学の考古学・人類学博物館の所有する明治時代の写真コレクションの調査研究のため再来日しています。アメニティ 2000 協会とふたたびかかわって、協会の活動に貢献できること、日本と英国の文化交流に役立てることを願っています。



タイ・チェンマイ YMCA からのクリスマスカード

アメニティ・レポートの原稿募集

5月の総会にあわせて「アメニティ・レポート2014」(創立15周年記念号)を発行します。そのなかの皆さんの投稿欄「会員の声」への原稿を募集します。ふだん思っていること、最近読んだ本、見た映画、腹のたつこと、笑ったこと・・・なんでも結構です。友だちにおしゃべりするような気軽な気持ちで文章にしてお寄せください。

字数 400字前後 締め切り 3月末日

FAXでもメールでも郵送でも、事務局までお送りください。皆さんの原稿お待ちしております。

募金のご報告～10月11日に次の方々から募金をいただきました。ありがとうございました。(敬称略)

*トラスト募金

《10月11月合計 33,400円

2014年度累計 326,400円》

ガラス瓶をご寄付ください

3月になると甘夏のマーマレードをつくります。それにそなえてガラスの空き瓶を求めています。マーマレードをいれる小ぶりの瓶がありましたら、ご寄付いただけませんか。手許にあるという方はご連絡ください。受け渡しについてご相談させていただきます。

リーフレットを同封しました

このアメニティ便りと一緒にリーフレットをお送りしています。これはお知り合いに協会のことを宣伝していただく時にお使いください。リーフレットは一番手近な協会の案内書です。どうぞご活用ください。

もっとお入用の場合は、ご連絡くださればお送りいたします。



六甲山荘玄関・

縦樋も横樋も撤去、水撥ね防止の砂利をしいた現在の姿